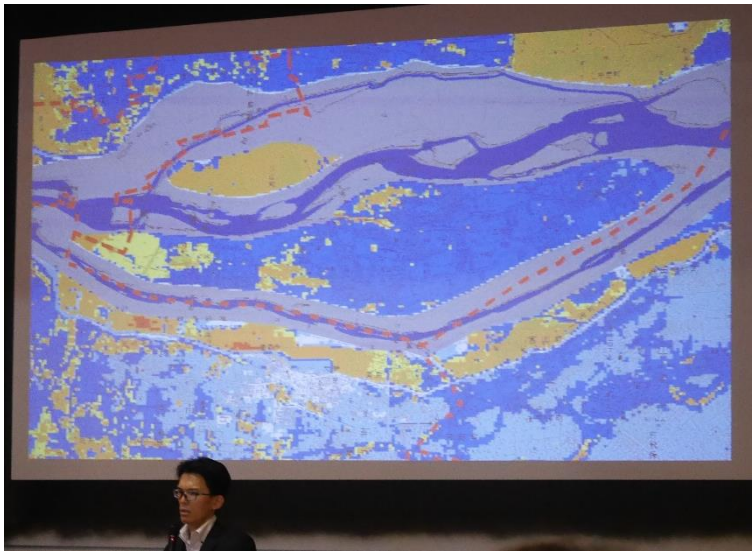
川島地区のハザードマップについても教えていただきました。
ハザードマップでは、川島地区は、真っ赤に示されています。生徒達は、そういう状況を踏まえ、日常から危険な場所を把握して、災害時に備えて生活していく大切さを実感することができました。



災害はいつ発生するか分かりません。日頃から、「もしも」の時を予測して備えておくことが大切だと学びました。特に、実際の場面では、避難するかどうかを迷う時間はほとんどないそうなので、「いつ避難を完了するか」を考えて行動することが大切だと分かりました。1年生の生徒たちは、先日の校外学習で岐阜県広域防災センターを訪問し、地震や火事などの災害から身を守る方法について学んでいますが、その時学んだことをとつなげながら、今日のお話を聞く姿が印象的でした。